

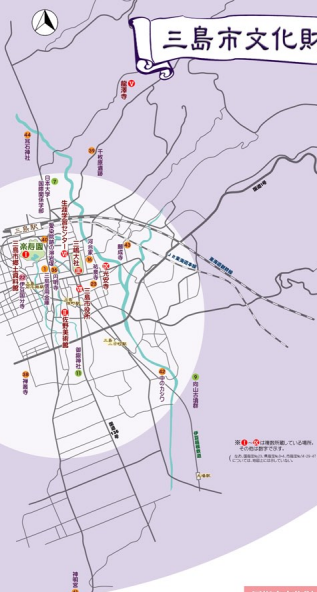
見る



三島市  
文化財ガイド

聞く  
知る

# 三島市文化財マップ



現在三島市には、  
国の指定文化財が26件、  
県の指定文化財が13件、  
市の指定文化財が47件  
あります！



## 県指定文化財

- |    |       |                   |              |               |
|----|-------|-------------------|--------------|---------------|
| 1  | 国書    | 新本藍色の御書(1冊)       | 船橋寺(宗派)      | [146. 9. 2]   |
| 2  | 国書    | 東海道、東海道の御書(2冊)    | 二島寺(一乗)      | [158. 11. 26] |
| 3  | 国書    | 水鏡阿波国加東立巻(1冊)     | *            | [165. 11. 19] |
| 4  | 工芸    | 刀 遠近両用銘文大塚重胤流(1口) | 三島大(一乗)      | [141. 3. 20]  |
| 5  | 工芸    | 刀 新製銘(1口)         | 佐野新製所(中納言)   | [141. 2. 7]   |
| 6  | 工芸    | 二十ヶ所山崎御書(12冊)     | 三島大(大覚)      | [167. 3. 13]  |
| 7  | 国書    | 野分御書(1冊)          | 三島大(大覚)      | [152. 3. 12]  |
| 8  | 国書    | 日本書紀及び長巻(1巻・6冊)   | 三島大(大覚)      | [155. 11. 26] |
| 9  | 文書    | 所山御書(1巻)          | 三島寺(淨土)      | [191. 3. 18]  |
| 10 | 天然記念物 | 御影、御影神社の大カシ(1株)   | 御影神社(山中御影)   | [146. 3. 19]  |
| 11 | 天然記念物 | 御影神社の大カシ(2株)      | 御影神社(善光)     | [146. 3. 19]  |
| 12 | 建造物   | 三島神社の石灯籠          | 三島大(大覚の御影寺社) | [147. 3. 24]  |
| 13 | 建造物   | 三島寺               | 三島寺(浄土)      | [149. 9. 30]  |

## 市指定文化財

- |    |    |                           |             |               |
|----|----|---------------------------|-------------|---------------|
| 1  | 国書 | 小笠原義高 三島義隆御書(6冊)          | 三島徳興寺(三乗)   | [141. 2. 7]   |
| 2  | 国書 | 書影二冊「月島の月」(1冊)            | 三島資料館(一乗)   | [158. 10. 10] |
| 3  | 国書 | 海防御書(1冊)                  | 三島寺(一乗)     | [153. 3. 15]  |
| 4  | 国書 | 下野御書「朝野の富士」(1冊)           | 三島寺(北照)     | [161. 3. 4]   |
| 5  | 国書 | 下野御書「小水流」(1冊)             | 三島寺(北照)     | [161. 3. 4]   |
| 6  | 国書 | 御影御書「月と半輪」(1冊)            | 三島寺(大覚)     | [197. 3. 1]   |
| 7  | 国書 | 御影第一巻「御影御書」(1巻)           | 三島寺(大覚)     | [197. 3. 1]   |
| 8  | 国書 | 河野御書「唐」(1冊)               | 三島寺(大覚)     | [169. 1. 16]  |
| 9  | 国書 | 大田真光御「日蓮の御下り御書」(1冊)       | 三島寺(大覚)     | [162. 3. 16]  |
| 10 | 国書 | 大田真光御「性空上人(号)下り御書」A、B(2冊) | 三島寺(一乗)     | [162. 3. 16]  |
| 11 | 国書 | 金剛力士御「御影、御影御書」(1冊)        | 御影寺(三乗)     | [147. 2. 23]  |
| 12 | 国書 | 光安寺 御影御書(1冊)              | 光安寺(自由仏教)   | [142. 3. 16]  |
| 13 | 工芸 | 徳川家康御書「徳川家康御書」(1冊)        | 三島寺(北照)     | [141. 2. 7]   |
| 14 | 工芸 | 徳川家康御書「徳川家康御書」(1冊)        | 三島寺(北照)     | [141. 2. 7]   |
| 15 | 工芸 | 三島氏人形(3体)                 | 個人蔵、個人蔵(一乗) | [158. 10. 10] |
| 16 | 国書 | 河野宗隆御書「徳川家康御書」(1冊)        | 個人蔵(一乗)     | [141. 2. 7]   |
| 17 | 国書 | 河野宗隆御書 秋山重胤古本 C398        | 個人蔵(実)      | [141. 2. 7]   |
| 18 | 国書 | 徳川家康御書「徳川家康御書」(1冊)        | 個人蔵(実)      | [141. 2. 7]   |
| 19 | 国書 | 徳川家康御書「徳川家康御書」(1冊)        | 個人蔵(実)      | [141. 2. 7]   |
| 20 | 国書 | 徳川家康御書「徳川家康御書」(1冊)        | 個人蔵(実)      | [141. 2. 7]   |

## 国指定文化財

- |    |    |                    |         |               |
|----|----|--------------------|---------|---------------|
| 1  | 国書 | 神皇正統記(1冊)          | 三島大(大覚) | [127. 11. 22] |
| 2  | 国書 | 関白 藤原経国御書(個人蔵)(1冊) | 個人蔵(実)  | [102. 2. 16]  |
| 3  | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 4  | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 5  | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 6  | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 7  | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 8  | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 9  | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 10 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 11 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 12 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 13 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 14 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 15 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 16 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 17 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 18 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 19 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 20 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 21 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 22 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 23 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 24 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 25 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 26 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 27 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 28 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 29 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 30 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 31 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 32 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 33 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 34 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 35 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 36 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 37 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 38 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 39 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 40 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 41 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 42 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 43 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 44 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 45 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 46 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |
| 47 | 国書 | 藤原経国御書(個人蔵)(1冊)    | 個人蔵(実)  | [116. 8. 12]  |



梅崎絵手箱



源頼朝の妻政子が奉納したと伝えられる手箱で、鎌倉時代の代表的な漆箱の工芸品です。この中には化粧道具一式34点が納められており、また表面には華やかな梅花と飛脚する雁が描かれていて、当時の上層階級の風情が感じられます。現在は東京国立博物館に寄託されています。



短刀 銘備前国長船作人長光造

長光は、鎌倉時代中期に備前国長船の地に一大刀工集団を組織した刀匠です。時代の要求に応え、大量の太刀を作りましたが、短刀は少なく、秀刀はさらに稀少です。この短刀は、姿、作柄が良く、特に刃縁が冴えていて保存状態も良好です。



三嶋大社本殿、幣殿及び拜殿

現在の三嶋大社本殿は、安政元年（1854）の地震で倒壊した後、万延元年（1860）から明治2年（1869）にかけて再建されたものです。その格式ある姿は、ほぼ旧態を踏襲していると考えられており、神社建築史において貴重であるために文化財に指定されました。



木造大白如來坐像

大白如來は、宇宙の真実の姿を表し諸仏・諸菩薩の根元とされるもので、真言密教における根本仏です。

この木造大白如來坐像は、平安時代後期の漆木造りの技法によって造られ、定形様式による漆箔がほとんどこわれています。像高92.2cm。醫學印を結び、中内の円満な顔だちで、優雅で洗練された美しさを持っています。大飯郡河内長野市の同寺に所蔵されていましたが、現在は佐野美術館で常設展示されています。



史跡 山中城跡

天文年間から永禄年間（1530～1560頃）に築城されました。小田原を本拠としていた北条氏の築城技術を駆使して造られた城で、戦国時代末期の山城の様子がよく分かります。特に「陣子窓」は北条氏の城に特徴的な塔の形で、塔の中に土手状の軌を掘り残して区画したもので、重立陣子のように見えるためにこう呼ばれています。天正18年（1590）3月29日、豊田秀吉軍の攻撃により、あえなく落城しました。



箱根旧街道

箱根旧街道は、江戸時代に徳川幕府が整備した東海道の一部です。当初は、滑り止めのために竹が敷かれていましたが、延宝8年（1680）に二期（約3.6m）の幅で石を敷きつめる大工事が行われ、石敷きの道となりました。

三島市では、平成6年から9年にかけて、願合寺、願巻、流崎平、上長板、世原の5地区の発掘調査と整備事業を行い、かつての古石の道を復元しました。



紙本着色 白澤白画像

貞享2年（1685）、沼津市原に生まれた白澤神師は、臨濟宗中興の祖と言われる名僧です。白澤神師は宝暦11年（1761）沢地に龍澤寺を建立し、神修の場としました。この白画像は白澤が没する前年の明和3年（1766）に描かれました。椅子に座る自身を大らかな曲線と美しい色彩で表しており白澤の傑作のひとつであるといえます。



三嶋織子

戦国時代に三嶋大社の舞女役であった幸若与惣太夫により創曲され、社境内に住む若者によって伝承されてきた伝統芸能です。現在は、三島織子保存会がおはやし3曲、しゃぎり7曲を継承し、技術指導や後継者育成に努めています。



桑考館・桑考の間絵画

桑考館桑考の間は二重の目窗を施した6畳の大広間です。この部屋の天井と地袋、襖、障子の意匠、杉板戸には明治時代における絵画界の大家の筆による210枚の絵画が描かれています。四季折々の植物や動物をテーマとした、情緒豊かな雰囲気となっています。



三嶋大社のお田打

お田打は、毎年1月7日に三嶋大社の舞殿で行われる民俗芸能です。これは、1年間にわたる農作業の過程を神前で模擬的に演じることに由来し、豊作を祈願するものです。舞の「穂長」と、囃しの「穂太郎」を中心に14名の人々によって演じられます。

向山古墳群は、古墳時代（3世紀中頃～6世紀前半）に造られたと考えられます。現在、14基の円墳と2基の前方後円墳が確認されています。2基の円墳からは、鉄剣や鉄器も出土しました。三島市内では最も古く、ヤマト王権との関わりも窺える重要な古墳群です。



史跡 向山古墳群



小沼義英 三島省風俗絵屏風

左右6曲1双、鳥籠図方式により描かれた屏風です。江戸時代後期の天保年間(1830~1843)頃の風俗を表しており、右は箱根日御道、左には宿場の風景を描いています。浮世絵師と考えられる小沼義英によって描かれたこの屏風は、当時の三島の景観・風俗を知る上で、とても重要な資料です。



東原忠二画「月鳥の月」

明治42年(1909)、第12回白鳥会賞に出展された作品です。東原忠二は明治19年(1886)、現在の三島市中央町に生まれました。東京美術学校を経て英国へ留学。ウィリアム・ターナーの作風に傾倒し、ロマン主義的な風景画を確立して、日本の風景画に新境地を開拓しました。



龍澤寺庵画入江長八鶴鶴工

伊豆松崎生まれの左官職人入江長八は、漆喰を素材とする鶴絵を創作した名工です。龍澤寺庵画入の板戸と内壁には千羽鶴や山水、菊花などが丹念に描き残されています。このように入江長八の作品がまとめて保存されているのは極めて貴重です。



吊手土器

三島市川原ヶ台の観音町8遺跡の発掘調査により発見されたこの土器は、アーチ状の吊手を取り付けた特異的な土器です。これは縄文時代中期のみ見られる形で、特異な装飾を施していることから、何らかの儀式に用いられた非日常的な用具と考えられています。



玉澤妙法華寺の庫裡



金剛力士像

庫裡とは寺院の台所のことです。妙法華寺の庫裡は、寛政3年(1791)火災のために消失し、寛政5年(1793)に再建されました。この庫裡は土間と板の間に、そして、いくつかの窓からなり、土間は「竈」が築かれています。日常生活の場として庫裡は改造されやすいためですが、妙法華寺の庫裡は古いかたちをよく保っており、県内でも特に完備された状態で残っています。

妙法華寺に安置されているこの像は、両像ともに豪華な作りで、全体のプロポーションも優れています。体つきや裳の流れが鎌倉時代の様式を留めていることから、製作時期は室町時代と推定されています。その筋骨たくましい姿から、この像に足を丈夫にしてほしいと願う人々から、足もとには草履や草鞋が供えられており、民間の徳心のあり方が窺えます。



東寿園内東寿館

東寿館は明治23年(1890)、小松宮彰に親王の別邸として建造された建物です。純日本風高床式宮内省造りで4部屋からなり、各部屋は中庭を囲む回廊で結ばれています。富士の湧水を運えた小浜池に映る東寿館の優雅な姿は、まるで一幅の絵を見るようです。



三右衛門人形



箱根田遺跡出土祭祀関係遺物

三島市安久の箱根田遺跡から出土した祭祀に関わる遺物です。調査の結果、かつて、この遺跡の所在地には運河があり、水上交通の重要地点であったことがわかりました。これら「人面書土器」などの遺物は、他地域から運ばれる「縄」を扱う祭祀儀礼に用いられたと考えられます。



樽殿絵巻絵画

樽殿絵は明治時代が主として建てられた純日本風の建物ですが、この御殿の板戸には美しい絵が描かれていました。これらは柱間の杉板に直接描かれており、自然の木目を生かした貴重なものとなっています。日本の古典や中国の故事、花鳥を題材としたその絵画技術は大変高度で、京都円山派の流れをくむものと考えられています。



河合家所蔵三嶋屋及び版木・関係文書

三嶋屋は、三嶋大社の社家であった河合家によって発行されていました。木版印刷による地方報の中では最も古いものといわれており、康永4年(1348)発行のものが現存しています。細字の仮名書きや農事関係の注釈が多いことなどに特色があります。河合家には故本も保存されています。



天正十八年 豊臣秀吉投書

天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めの際に出示された「投書」です。これは、北条氏の支配地の村人たちに向けられたもので、豊臣軍の行動を抑制し、治安維持を保証することを伝える内容となっています。戦のために逃亡してしまっ村人たちを呼び戻し、農業への従事を促すことを目的としています。



河合家所蔵三島宮本陣関係史料

江戸時代、三島宮には2軒の本陣が有りましたが、樋口家はそのひとつです。樋口家には1600年に及ぶ古文書が保存されています。この文書は内容から3種類に大別されており、その中の68点が三島市の文化財に指定されています。



秋山富南古文書 原本豆州志箱付7件

『豆州志稿』は江戸時代に編纂された伊豆地方の代表的な地誌です。著者の秋山富南は、三島市安久に生まれ、近世地理学の創始者のひとりである並河誠所に師事しました。富南は寛政元年(1789)から12年にわたる現地調査を行い113巻の『豆州志稿』にまとめました。他に『伊豆海島志』、『豆州行記』などの書物と伊豆国全図1枚が三島市の文化財指定を受けています。

# 三島市登録有形文化財

## 1. 梅御殿 (登録年月日 平成18年10月18日)

梅御殿は明治23年に小松宮彰仁親王が別邸を営まれる際、京都御所の一部を下賜されたもので、木造2階建ての建物です。床に梅の木が使われている主室「梅の間」があることから梅御殿と呼ばれるようになりました。高床式書院敷寄廻りの邸宅は幾多の棟をもつ書院風のもので、京都書壇の画家による彩色の杉戸絵や襦絵があり、宮家の独特な雰囲気を持っています。



## 2. 三嶋齋師の館《旧河家住宅主屋》

(登録年月日 平成18年10月18日)

代々三嶋齋を製作していた河家の旧宅です。建物は木造平屋建て、漆喰塗りの真壁造りで屋根は現在では作られていない特殊な瓦葺となっており、「起り破風(むくりはふ)」の屋根をもつ式台玄関に特色があります。河家の言い伝えでは、幕末に旧家屋が焼失した後、藩山代官の江川太郎左衛門の計らいで、裾野市十里木にあった閑所を解体し、移築した建物であるといわれています。



## 3. 丸平商店店舗・土蔵 (登録年月日 平成18年10月18日)

### 《店舗》

丸平商店は明治初期に建てられた木造2階建ての商店建築です。平成15年には金物店から飲食店に改装されました。建物の外部は当時の防火建築である土蔵風仕上げ、壁の漆喰やなまこ壁、正面入口の広い開口と大きなガラス戸の意匠、肉臉の石造壁、軒を支える太い垂木の構造などに特色があり、三島市内では屈指の文化的建造物といえるでしょう。



### 《土蔵》

この土蔵は店舗部分を飲食店に改装した際に、店舗の一部として改装されました。建物の構造は土蔵造りとなっており、外部は腰が石造り、外壁が土壁下地の漆喰塗り仕上げで、窓など開口部周りは防火戸に仕上げられています。内部は松材を使い、床を敷き風の土間に変わっていますが、階段部分をわずかに改修した他は、ほぼ建築当時の姿が残されています。



## 4. 徳古堂ムラカミ屋 (登録年月日 平成12年10月18日)

大正12年の関東大震災・昭和5年の北伊豆地震後の復興により、三島市には大正・昭和の重要な建造物が数多く建てられました。徳古堂ムラカミ屋(旧ムラカミ洋品店・大正15年建築)は、三嶋大社前という当時の商業地域の中心に位置した店舗併用住宅で、壁を銅板で張った看板建築です。その建築年代や意匠から、三島の町並みを代表するもののひとつといえるでしょう。



## 5. 隆泉苑・隆泉苑表門



《隆泉苑》(登録年月日 平成9年11月5日)

隆泉苑は佐野美術館(昭和41年開館)の設立者、佐野隆一翁が故郷の高齢のために昭和6年に建て、昭和52年、遺族により同館に寄贈されたものです。

同美術館の敷地内にあり、庭園を含めた敷地5,000㎡余の中に建つ平屋建ての家屋です。伝統的木造工法による書院造りと数寄屋造りを併せ持ち、回遊式庭園が落ち着いた雰囲気構成しています。

《隆泉苑表門》(登録年月日 平成9年12月12日)

隆泉苑表門は昭和6年に建てられた開口の広い両袖軒付の四脚門で、切妻造り、瓦葺という構造になっています。表門の意匠は左右の袖壁と一体的で、上端を開放的に仕上げ、土壁の膝下を縦板貼りとしています。全体に簡素な造りとしながら、ケヤキの一枚板を用いた門扉は見応えがあり、訪れる人々を魅了しています。



## 三島市登録有形文化財マップ



## 6. 旧三島測候所庁舎

(登録年月日 平成19年5月15日)

三島測候所は昭和5年の竣工後、北伊豆地震の被害から免れた鉄筋コンクリート造りの建物です。正面中央部が2階、左右が1階建ての左右対称の外観。モダニズムを基調とし、正面2階窓台を半円状に張り出し、玄関のくし型の欄間にステンドグラスをはめ込むなど、実用性と機能性を重視するこの種の建築には珍しい意匠性を持つことが特徴です。



## 三島市文化財ガイド

発行年月日 平成29年9月29日  
編集・発行 三島市教育委員会 郷土文化財室  
TEL 055-983-2672  
FAX 055-983-0870  
E-mail: bunkazai@city.mishima.shizuoka.jp